

Messerschmitt Me262A

タミヤ 1/100スケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. Me262について

メッサーシュミットMe262は第二次世界大戦末期にドイツ空軍に実戦配備された、世界初のジェット戦闘機 / 爆撃機である。ユンカースJumo004B型ジェットエンジン2基を搭載した後退翼機で最高速度は約870[km/h]に達した。Me262には30[mm]機関砲を装備した戦闘機型のA-1a型(加えて50[mm]ロケット弾を装備した対地攻撃用機も作られた)、500[kg]爆弾2発を搭載した爆撃機型のA-2a型、複座の夜間戦闘機B型、性能向上型のC型等が存在する。各型合わせて約1400機が生産されてエース部隊に重点的に配備されたものの、戦局を挽回するには至らなかった。

本機を配備した部隊としてはJV44(第44戦闘団)やJG7(第7戦闘航空団)、コマンド・ボトニー等が知られている。

2. キットについて

キットの発売は1971年のことで、今回は製作していませんがロケット戦闘機Me163とのセットで、飾り台も付属しています(ちなみにタミヤミニジェットシリーズ中唯一の大戦機のキットである)。キットには250[kg]爆弾と爆弾架の部品も付属しており、爆撃機型を作ることも可能です(対地攻撃用ロケット弾の部品は残念ながら付属していません)。デカールはノボトニー・ガーランド爆撃航空団と順当なものとなっています。パネルラインは当時のタミヤスタンダードともいえる、スジボリと凸モールドの併用で再現されています。

3. 製作と塗装について

個々のパーツの形状は今見ても遜色無いのですが、合わせ目の段差が結構有るのでエポキシパテ(タミヤ速硬化タイプ)とサーフェーサー500(グンゼ・ピン入)で目立たないようにしています。左右のエンジン部は歪みが大きくヤスリ掛けには苦労しました。プロポーションは変更していません。但し、キャノピーと胴体のつながりに不自然さがあったのでこの部分のみ修正しています。作業の過程で失われた凸モールドの一部は彫り直しましたが、差し支えない箇所はそのままです。機銃点検ハッチにある膨らみが省略されていたので追加。ピトー管・アンテナ・コクピット等はそれらしく作り直しています。尚、前輪式降着脚の為、機首に釣り用オモリ約6[g]を固定して有ります。

塗装はRLM76(グンゼ缶スプレー)を吹き、スーパークリア光沢(グンゼ缶スプレー)でコートした後、ハセガワ・レベル1/48ガーランド機の塗装図を見ながら筆塗りで迷彩塗装を行いました。塗り分けにはエナメルカラー(タミヤ)を用い、RLM81はカーキドラブ+ハルレッド、RLM82は濃緑色+明灰白色です。コクピット等はエナメルのフィールドブルーです。キット付属のデカールを用いてガーランド中將機を再現しました。最後にガンダムマーカのスタートブラックでスミ入れし、バートアイアンでエンジン部に軽く汚しを入れています。



前面



背面

4.製作過程



ジェット戦闘機とはいえ1/100ではこんなに小さい。



機首に固定した釣り用オモリ。手前はエンジンに流用した旧LS製1/144爆弾。



迷彩塗装はエナメル系の調合色の筆塗りで再現している。



完成するとほとんど見えなくなるが、計器板周辺に手を入れてみた。